

授業ツアーにおける授業改善への取り組み

～ 東京都の場合 ～

東京都立神代高等学校 山本 博之

教員が授業改善に取り組むうえで、研修は重要な役割を担っている。1校1人配置が基本の情報科にとっては特に必要である。しかし、地方自治体が主催する研修では、教科「情報」の内容や指導方法などを継続的に学ぶことは難しい。そこで東京都高等学校情報教育研究会では、平成27年より授業ツアーと題して大規模な授業見学会を実施した。本発表では授業ツアーの概要、アンケート結果について報告する。

1. はじめに

教員が授業で力を発揮するうえで、研修は重要な役割を担っている。特に情報科は、新しい教科であるため、自ら進んで研修を行わなければ、より良い授業をデザインすることは難しい。教育業界全体も大きく変化しようとしている。知識基盤社会に対応した教育が求められる今、授業改善に向けた研修は、情報科教員だけでなく、すべての教員においても必要である。

本発表では、教科研究会や東京都の研修体制を例に、情報科の授業改善への向けた取り組みについて報告する。

1.1 東京都における研修体制の現状

東京都では、東京都教職員研修センター⁽¹⁾が教員に対する研修や教育研究を管轄している。研修の内容は多岐にわたる。ここでは学習指導が含まれるものを中心に、その取り組みについて表1に示した。

表1 東京都の基本的な研修

年数	研修名称	内容・回数等
1年目	初任者研修 (必修)	校内で年間3回の研究授業を含む120時間の授業研修。
2年目	2年次研修 (必修)	校内で年間3回の研究授業を含む15時間の授業研修。
3年目	3年次研修 (必修)	校内で年間3回の研究授業を含む10時間の授業研修。
4 ～ 10年目	東京都 教師道場 (任意)	教科の専門性向上を目的とした2年間に渡る任意の授業研修。
11年目	10年次研修 (必修)	校内で年間3回の研究授業を含む28～45時間の授業研修。

この他にも、任意の研修があるが、入都した多くの教員は、表1の必修研修のみを行うのが通常となっている。

1.2 東京都高等学校情報教育研究会

教育委員会以外に研修の一翼を担っているのは各都道府県の教科研究会である。東京都でも平成14年より「東京都内の高校での情報教育の向上・情報教育の研究・推進」を目的とし、東京都高等学校情報教育研究会⁽²⁾(略称：都高情研)が発足している。

情報科は1校1人配置が基本のため、このような研究会が情報科教員の研鑽と交流の場を提供している。筆者が所属する都高情研では研修部が中心となり、授業見学会をはじめ、情報関連企業や大学とのタイアップ研修などを実施している。

2. 教科「情報」授業ツアー

都高情研では、授業公開・見学がもっとも重要な研修であると位置づけ、平成27年より教科「情報」の大規模な授業見学会を開始した。この見学会は、授業ツアーと題して、都内のさまざまな高校で実施した。表2に授業ツアーの実施校一覧を示した。

表2 授業ツアー実施校一覧

回数	実施日	実施校
	授業名	
第1回	2015/5/29	都立町田高校 問題解決を学ぶ意義と流れ
第2回	2015/6/10	都立白鷗高校 Webページによる情報伝達
第3回	2015/6/19	都立神代高校 プログラミング演習
第4回	2015/10/1	都立立川高校 プログラムの仕組み/ アルゴリズム・フローチャート

第5回	2015/10/15	都立成瀬高校 問題解決
第6回	2015/10/16	都立神代高校 情報技術の発展と社会
第7回	2015/11/6	都立石神井高校 アルゴリズム
第8回	2015/11/13	都立江北高校 情報科が実施する主権者教育
第9回	2015/11/27	都立神代高校 ロボット制御プログラム実習
第10回	2015/12/1	都立本所高校 サイバー犯罪とセキュリティ対策
第11回	2016/1/28	都立武蔵高校 問題解決の実際(問題の分析)
第12回	2016/2/12	都立墨田川高校 操作性の向上と情報技術
第13回	2016/2/18	都立町田高校 情報通信ネットワークと問題解決
第14回	2016/2/29	都立三鷹中等 問題解決のための方法

2.1 授業ツアーの特徴

授業ツアーの特徴は、新人からベテランまで、幅広い層が授業者となっていることである。東京都の研修体制では10年次研修までしか研究授業が義務づけられていないため、幅広い層の授業者の授業見学ができる本取り組みは、自治体が設定する研修では得ることができない場となった。また、教員以外の参加も可能としたことで、学生や企業の方も数多く参加した。(図1を参照)

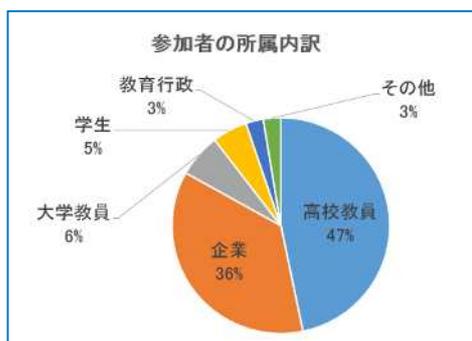


図1 参加者の所属内訳(総数:77名)

2.2 アンケート結果(一部を掲載)

【Q1】授業見学は、ためになりましたか？

選択肢	数
とてもためになった	24
どちらかと言えばためになった	1
どちらかと言えばためにならなかった	0
全くためにならなかった	0

【Q2】来年度も参加したいと思いますか？

選択肢	数
是非とも参加したい	22
どちらかと言えば参加したい	2
どちらかと言えば参加したくない	0
もう参加したくない	0

【本取り組みに関する主なコメント】

お山の大将にならないためにも、一人教科としては必須だと思います。(公開理由)
初任者で授業指導をしてくれる人がいなかったため。(参加理由)
情報科の教員を志望する社会人学生として、教員の方々が教育の現場で、何をどのようにして生徒を教えているのかを学ぶため。(参加理由)
東京の先生だけでなく、近県の先生の授業見学もできると面白いかと思います(運営に関して)
授業案や授業で使った資料などが会員向けに公開され、会員である方のメリットをより強く出せると良いかと思います。(運営に関して)
企業の方から、教員ではない視点での授業改善のヒントを得られた。(公開した感想)

3. まとめ

授業公開や授業見学は、教員にとって最も有効な授業改善の手段である。しかし、一人では広く授業を公開し、意見を求める場を設定するのは難しい。よって、教科研究会が組織として授業公開を補助することが必要となる。このような取り組みはどの都道府県の教科研究会においても実施可能だと考えている。今回、都高情研が行った授業ツアーという取り組みが、各都道府県に広がることを期待している。

また教科研究会は、授業公開のプラットフォームとしての役割だけでなく、情報教育を担う人材の育成の場としても期待されている。教員研修や採用を行う自治体、教員養成を担う大学だけでは、今後の情報教育に携わる人材の育成は難しい状況である。教科「情報」が始まってから常に実践を積み上げてきた情報教員たちが集まって組織している教科研究会が、情報教育の普及、促進、発展に向け、都道府県の枠を超えて連携することが必要だと考えている。

引用・参考サイト

- (1) 東京都教職員研修センター
<http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/>
- (2) 東京都高等学校情報教育研究会
<http://www.tokojoken.jp/>